

令和3年度 新発田市遺跡出土品展

まな 学び舎に伝えられた宝もの

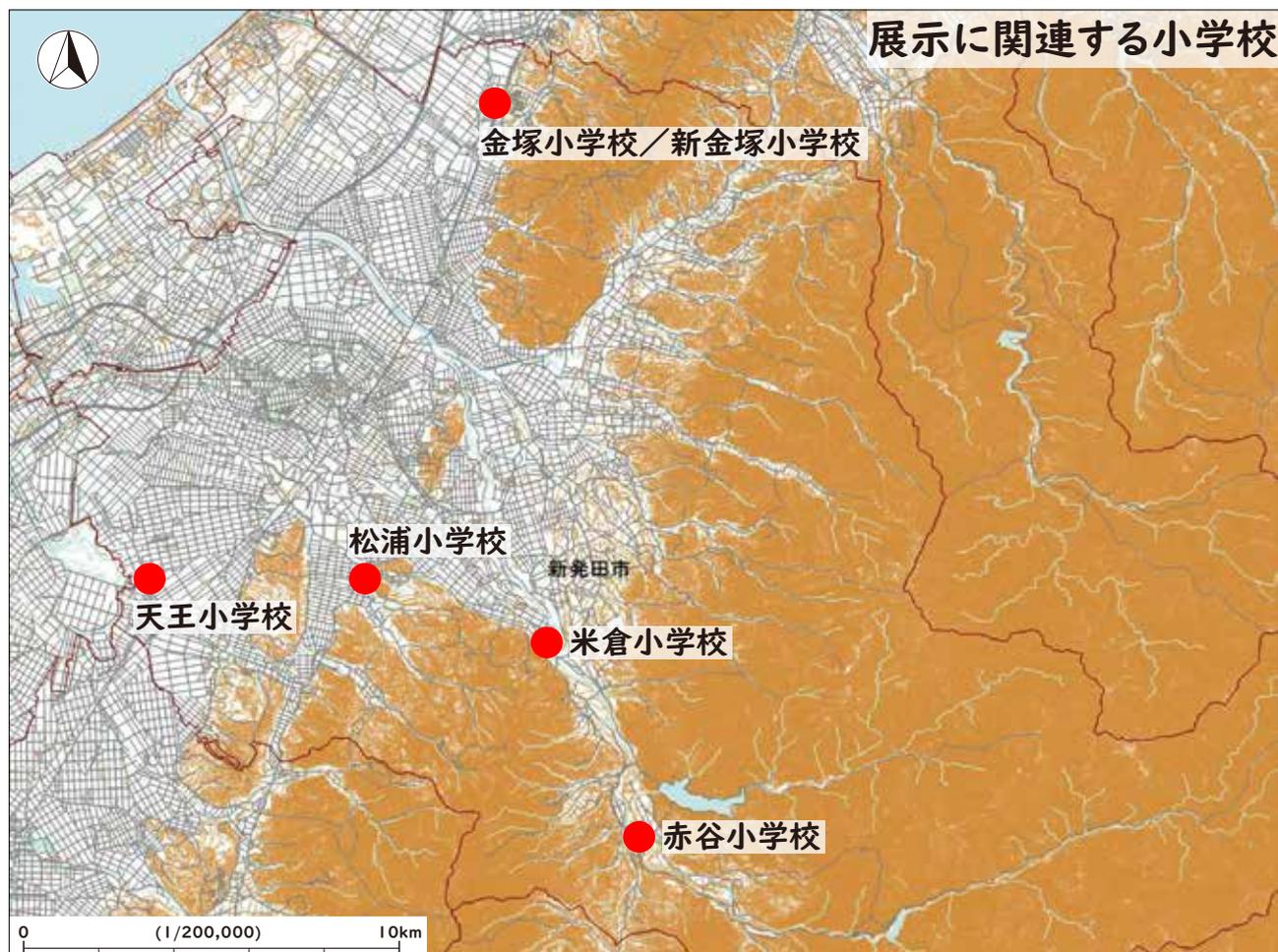
令和4年2月26日(土)～3月23日(水) / イクネスしばた 展示室

主催：新発田市教育委員会

開催にあたって

学校には土器や石器など、昔の人々が実際に使用していた道具が所蔵されていることがあります。それらは、地域の方々や児童、教員がその地域で採集したものも多く、地域の歴史を語るうえで貴重な資料であり、言わば「地域の宝もの」です。

今回の展示では、統廃合により閉校となった市内の小学校(松浦小学校、米倉小学校、赤谷小学校、金塚小学校、新金塚小学校、天王小学校)に所蔵されていた出土品を紹介します。この展示を通じて、地域の歴史や、これらの出土品を寄贈した方々の思いに触れる、皆様にとってそのような機会となることを願っています。



※ この図は、国土地理院発行の数値地図25000(空間データ基盤)及び基盤地図情報を加工して作成しました。



松浦小学校

所在地：法正橋 地内

概要：平成30年3月閉校、東小学校へ統合

縄文時代中期から後期（約5,000～3,000年前）の土器と独鈷石、弥生時代や奈良・平安時代の土器、鎌倉・室町時代の珠洲焼などがあります。独鈷石を除き、採集地や寄贈者、寄贈された時期などは不明です。

独鈷石は、縄文時代後期から晩期（約4,000～2,300年前）を中心に、祈りやまじないに使用されたと考えられる石製品です。角閃石安山岩で作られています。旧松浦中学校（昭和22～47年）に勤務していた教員が、同校の敷地内で採集したもので、保管した後に小学校へ寄贈されました。採集された場所は、現在、覆盆子沢遺跡として登録されています。



出土品の保管の様子



独鈷石



米倉小学校

所在地：大槻 地内

概要：平成30年3月閉校、東小学校へ統合

縄文時代中期から晩期（約5,000～2,300年前）の土器が、ベニヤ板に針金留めされ、校長室に保管されていました。

残されていた当時の記録から、在校していた児童が、自身が住む山内地内で採集したもので、昭和43年に寄贈されたとわかります。現在、山内地内では縄文時代の遺跡が5遺跡見つっていますが、これらがどの遺跡から出土したかはわかりません。

昭和30年代後半から40年代前半には、市内で考古資料が調査され、本格的な遺跡の発掘調査も初めて行われました。この時期、市民や児童の中に、遺跡への関心が高まっていたことがわかります。



出土品の保管の様子



縄文土器



赤谷小学校

所在地：上赤谷 地内

概要：平成27年3月閉校、米倉小学校へ統合

縄文時代中期から晩期（約5,000～2,300年前）の土器や石器、石製品などがあります。閉校前は、校内の郷土室に展示されていました。

これらには、出土地や寄贈者、寄贈年月日が記録されているものもありますが、多くは不明です。その一方で、滝谷新田や滝谷で出土し、昭和43年に地元の方から寄贈された記録のあるものも見られます。

石製品（右の写真下段）は安山岩製です。正面から側面にかけて文様が彫り込まれ、孔が2か所あけられています。縄文時代晩期（約3,000～2,300年前）に、祈りやまじないなどに使われたものと考えられます。



出土品の保管の様子



縄文時代の石器・石製品



金塚小学校

所在地：金塚（旧金子新田）地内

概要：昭和44年3月閉校、新金塚小学校へ統合

縄文時代の土器や石器のほか、奈良・平安時代の土器、鎌倉・室町時代の珠洲焼など様々な時代のものがあります。これらは、学区の周辺に所在する貝塚遺跡や貝屋A遺跡などから採集され、そのほとんどは同校に長く勤められた田上又太氏が採集し、寄贈されました。

昭和43年11月2日未明に同校で発生した火災によって失われたものも多く、残されたものには黒い煤が付いています。

貝塚遺跡は縄文時代中期から後期（約5,000～3,000年前）の遺跡です。この遺跡は古くから県内外で知られ、昭和58年に刊行された『新潟県史 資料編I』には、小学校で保管されていた被災前の土器や石器などが紹介されています。



採集場所が記された縄文時代の石器



縄文土器



新金塚小学校

所在地：下小中山 地内

概要：平成20年3月閉校、加治川小学校へ統合

縄文時代の土器や石器、奈良・平安時代の土器があります。

学区内には、縄文時代から室町時代まで多くの遺跡がありますが、これらが採集された場所や寄贈者、寄贈された時期は不明です。



天王小学校

所在地：天王 地内

概要：令和3年3月閉校、豊浦小学校へ統合

縄文時代の石器や古墳時代の土器、室町時代の瓦など様々な時代・地域のもがあります。特に、古墳時代や奈良・平安時代の土器が多く、学校周辺に広がる曾根遺跡で採集されたものも見られます。

曾根遺跡は、古墳時代から平安時代にかけての遺跡です。奈良・平安時代には、福島潟に面した物資の流通拠点の役割を担った遺跡と言われています。平成7年に、天王小学校改築に先立って発掘調査も行われました。

これらのものは、昭和44年に当時の校長が資料室を作る目的で、地域の方々へ呼びかけて集められました。この呼びかけに対し、地域の人々からは、200点以上の民具や考古資料が寄贈されました。

考古資料の多くは、この地域で文化財の保護や地域史の研究に尽力した佐藤義利氏が収集し、寄贈されました。佐藤氏が寄贈したものは、この地域に限らず、上越地方や奈良県など遠隔地のものもあります。郷土の歴史を伝えるとともに、実物の資料を目の当たりにする機会を児童たちが持てるようにとの、佐藤氏の強い思いが感じられます。



縄文時代の石器



曾根遺跡採集の古墳時代の土器



奈良県興福寺の奈良・平安時代の瓦

令和3年度 新発田市遺跡出土品展

まな や つた たから
学び舎に伝えられた宝もの

編集・発行：新発田市教育委員会 文化行政課

発行日：令和4年2月26日